

◇ 北海道から沖縄まで ◇

今年度、いよいよ沖縄県那覇市で「ファースの家」の建築がスタートしました。沖縄は冷房時間が暖房時間を上回る日本唯一の都道府県なので「ファースの家」までの性能は必要ないだろうと考えてきました。

沖縄の住宅は、台風やシロアリの影響なのかコンクリートで建てられることが一般的とされていたことも「ファースの家」をお勧めしなかった理由の一つです。

ただ10年ほど前から急激に木造住宅が見直され、9割以上がコンクリート造だったものが近年では4割近くが木造住宅となっています。

沖縄で「ファースの家」が建てられるようになった経緯から、家の性能について考えてみたいと思います。

【カビによる健康被害】

10年ほど前から工務店向けの温熱環境勉強会をさせて頂くために沖縄に伺う中で、コンクリート住宅での夏型結露がカビの原因になっていることを知りました。沖縄では冬でも昼間は気温が上がる事が多く、窓を開けた際に侵入する湿度の高い空気が夜間に冷えた壁面で冷やされ結露が起こるということでした。

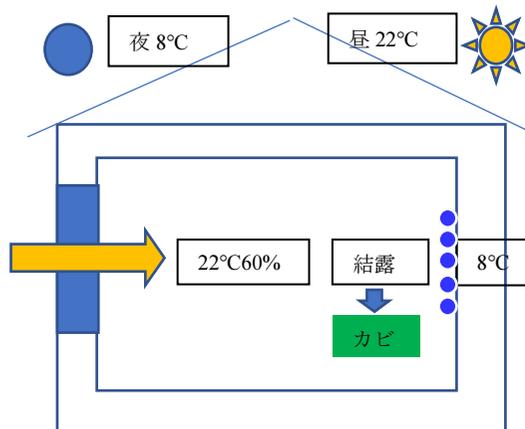
(22℃60%の空気は14℃以下の場所で結露を起こします。)

この結露から発生するカビが原因で慢性閉塞性肺疾患の患者が増え、長寿県だった沖縄の平均寿命を下げている可能性がある、と、尊敬する医学博士の先生から教わりました。

【木造では大丈夫か】

木造住宅が普及してきたことで上記のようなカビ問題は解決に向かうと思われましたが、数年前に行った研修会の時に「省エネ基準通り家を作っているのに床下でカビが出てしまうのはどうしてか？」という質問を頂きました。

沖縄の省エネ基準は、基本的に冷房対策なので床下に断熱材を入れる基準がないことが原因だと思われます。



床下に薄くても良いので断熱材を入れるとある程度は解決するのですが、基準通りに家づくりを行っている工務店さんにとっては、何を信じて家を建てたら良いのかわからなくなる事例です。(33℃80%の空気は28℃以下の場所で結露を起こします。)

このような事例を見ていると、単純にコンクリート造を木造に変えただけではカビの問題は解決しないということがわかりますし、この問題は沖縄だけのことでないと感じました。

【「ファースの家」の進化について】

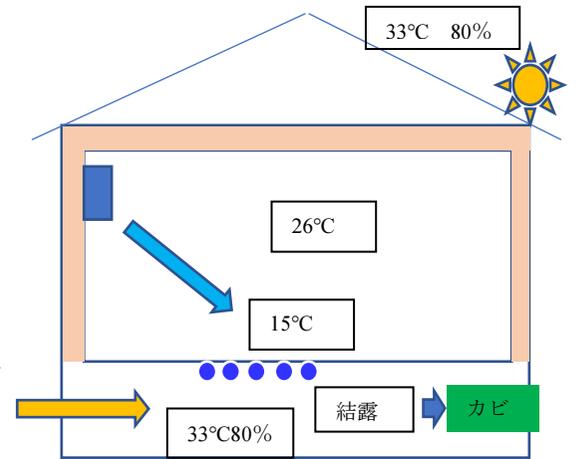
「ファースの家」は家中を断熱材で覆うので低温部分ができにくく、湿度を一定に保つ機能があるので躯体内で結露が発生する可能性が低いと言えます。このことから、沖縄でのカビによる健康被害を防ぐには「ファースの家」がお役に立てると判断しました。

北海道で誕生した「ファースの家」は家に起きる問題点を改善して行く過程で構築され、より広い地域に対応できるように進化を続けています。

進化を続けるために一番必要になるのは、「ファースの家」に住んで頂いているユーザー様の声です。

これからもたくさんの声を頂きながら、より良い家づくりができるように努力を続けて参ります。

(著 代表取締役社長 福地 智)



幸太の知恵袋

カーペットの凹み

家具を移動しようとしたら、カーペットに跡がついていて、その凹みが気になって、思い通りに家具の移動ができなかった。なんて事もあるよね。そんな時は、霧吹きで水をかけたあと濡らしたタオルを敷き、その上からアイロンをかけるいいんだよ。戻らない場合は、この作業を何回か繰り返してみてね。